

## 213. コアジサシという名の鳥・・

技術戦略部 調査役（土木・建築） 黒田 充

令和3年度初の「下水道よもやま話」になります。改めまして、今年度もよろしくお願いたします。なお、私の投稿は昨年度同様、難しい用語等は出てきませんので、気軽な気持ちで読んでいただければと思います。

さて、昨年度は、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。振り返りますと、テレワーク（在宅勤務）やTV会議といった新たな勤務体制・方式が（半ば強制的に）普及促進されるなど評価すべき成果もありましたが、先を見通せない状況の中、総じていうと一進一退といった感じの年であったように思います。また、今年度も新型コロナウイルス感染拡大（第4波）に始まった感があり、春の陽気とは異なり、晴れやかな状況とはいきませんでした。

ところで、今年は新型コロナウイルスの関係で、花見（正確な表現をしますと、桜の下での宴会）は自粛という地域が多かったのではないかと思います。そのため、桜の枝を購入して自宅で花見を楽しむ（室内で桜を愛でる）方が多かったそうです。私自身はというと、桜の枝までは購入せず、通勤途上で公園の桜を長時間立ち止まらない程度に眺めたり、ベランダから遠くの桜を眺めたり・・といった程度の花見を楽しみました。

改めて考えてみますと、年を重ねるうちに、桜のみならず、蓮の花や紅葉、梅の花（←当事業団があるビルのすぐ近くには湯島天神があります）・・といった季節ごとの自然の移ろい（植物）に心動かされることが多くなりました。特に、今般のコロナ禍においては、世情への関心が徐々に薄れるとともに、それに反比例して自然への関心が強くなっていったように感じます。

そのような中、といっても昨年話になりますが、とあるOBから、最近では野鳥に興味があり、野鳥（の子育て）の観察会に参加した・・との話を伺いました。そのことが何となく気になりつつ、それから3か月くらい経ったころ・・NHKの番組を見ていると、その野鳥の保護活動（復活作戦）が放映されていました。内容としては、羽田空港（東京）近くの建物の屋上が、コアジサシという絶滅危惧種の鳥の繁殖地となっている（保護活動が行われている）というものでした。ここでいう「羽田空港近くの建物」というのは、東京都下水道局森ヶ崎水再生センター（東施設）という下水処理施設のことでした。私は、鳥には植物ほどの関心は持っていなかったのですが、これを機会に、保護活動を行っている（観察会を主催した）NPO法人のHP等を見ってみました。

- ・ コアジサシはチドリ目カモメ科に分類される鳥で、毎年子育てのために日本に渡ってきている。鳥（の繁殖）のためには緑があったほうがよいと考えるかもしれないが、コア

ジサシは草木がない開けた土地（本州以南の砂浜、埋立地、川の中州等）において集団で繁殖する。

- ・ この下水道施設の屋上はコンクリート製であり、巣穴を掘ることができない。そのため、営巣地の整備にあたっては、当初、下水道局から無償提供されたスラッジライト（下水処理の過程で生じる汚泥を加工した軽量細粒材）を砂利の代わりとして使用していた。ただ、スラッジライトは、濃い赤茶色のため卵が目立ってしまう（捕食される可能性が高くなる）こと、また、保水性を有することから台風・大雨時に水が溜まりやすい（巣が浸水してしまう）ことや植物が生えやすいといったことが分かってきたため、灰白色のコンクリート破砕片に変える等の検討がなされた。なお、後年に行った調査により、コアジサシは白色の地面を好んで営巣していると思われるため、営巣地に貝殻を撒く等の工夫を行っている。
- ・ コアジサシの営巣地整備にあたっては、NPO法人が草原化対策（除草等）や捕食者対策（カラス除けの水糸を張る等）のほか、デコイ（木で制作したコアジサシの模型）を設置してコアジサシを営巣地に多く集める（仲間がいると思って飛来することを期待）等の対策・作業を定期的に行っている。

上記取組をはじめて20年近くになるそうで、NPO法人のほか、東京都下水道局等が協力して実施しているとのこと。私自身はこの保護活動に関わってはいないため、正確な情報としてはお伝えできませんが、下水道施設特有の立地や施設面積（相当規模の屋上面積）等とコアジサシの生態がうまく結びついたのでこの事例なのだと思います。下水道施設の屋上をコアジサシの保護活動の場とすることは、行政（東京都下水道局）として内部的にいろいろな議論があったのではないかと推察されますし、それをまとめ、当初の段階からスラッジライトを無償提供するなど踏み込んで協力していくというのは容易ならざることだったと想像されます。

いずれにしても、「都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、あわせて公共用水域の水質の保全に資すること」を目的としている下水道（施設）において、絶滅危惧種であるコアジサシの保護活動を行うというのは運命的な出会いだった気がします（私は勝手にそう思っています）。この出会いにより、コアジサシが絶滅危惧種ではなくなる日が来ることを期待しつつ、コロナ禍でありますので、まずはHPの活動記録等により見守っていきたいと思います。

なお、関心のある方は、「NPO法人リトルターン・プロジェクト」のHPに詳細な情報が掲載されていますので、そちらをご覧ください（法人名で検索してみてください）。